



特集

赤坂・青山で活躍する

どこの街にもそれぞれの表情があります。まちのたたずまいと住む人の暮らし方が、表情をつくるのです。

赤坂・青山には、様々な分野で活躍されている「人」が大勢います。その活躍により「赤坂・青山」のイメージが築かれ、多くの人々が訪れるまちとなったのです。

今回の特集は、そんな地域で活躍してこられた「人」にスポットを当てて、赤坂・青山とどのように関わってきたのか覗いてみたいと思います。



赤坂在住35年
赤坂のまちづくりの応援団長

宇崎竜童さん
(ミュージシャン)



梅窓院や根津美術館を設計
青山を拠点に活躍する世界的建築家

隈研吾さん
(建築家)



乃木坂を拠点に活躍する
世界的に有名なブライダルデザイナー

桂由美さん
(ブライダルデザイナー)



赤坂の街の再生の糸をつなぐ
赤坂花柳界の屋台骨

影子姐さん
(東京赤坂組合 赤坂芸妓組合長)



青山を拠点に活動する
心の時代のスーパーサポーター

和田秀樹さん
(精神科医)



赤坂で創業100年
お騒がせ跡取り嬢ホッピーミーナ

石渡美奈さん
(ホッピービバレッジ株式会社 代表取締役)

今回お話を伺ったのは、各界で活躍されている方ばかり。この場を借りて、お礼を申し上げます。また、本当に色々なお話を聞かせていただきましたが、紙面の都合でほんの一部しか掲載することができませんでした。ご了承ください。

表紙イラスト

中原 収一さん

イラストレーター(青山在住)

残雪で色あせた街に、少しのわか雨で車道のアスファルトや、歩道のタイルが色つき通り向うの店の窓際で、人待ち風に座っているひとを見かけたりと、いつかどこかで観た映画の1シーンのような気がしました。



赤坂在住35年
赤坂のまちづくりの応援団長

宇崎竜童さん(ミュージシャン)
Ryudo Uzaki

今回で2回目となる「Swing赤坂2010」。これは、赤坂地域の様々な場所で音楽を発信し、赤坂の魅力を再発見してもらおうという地域の皆さん主体のイベントです。歌手・作曲家・俳優・映画監督として活躍されている宇崎竜童さんは、このイベントに応援団長として参加されています。赤坂在住35年、「ノヴェンバー・イレブンス1111」というライブレストランを赤坂で経営されています。



参加のきっかけは？

「赤坂商店街協議会の皆さんから、赤坂の街をもう一度活性化させたいというお話をいただき、自分が携わっている音楽という面からこのイベントを盛り上げることができないかと思い、参加させていただいています。」

宇崎さんは赤坂在住35年にえられるそうですが…

「以前は、古いお屋敷や料亭が立ち並び…といった風情でしたが、今やコンビニやチェーン店のコーヒースhopなどがそれに取ってかわるようになりました。便利になるのは良いことですが、街の一員として、昔ながらの街並みや昔からの赤坂に住んでいらっしゃる方々の想いも大切にしたいなと感じています。」

読者へメッセージを！

「赤坂は、古いものと新しいものが混在しています。すぐ近くに赤坂御所や江戸を感じる商店などがある一方で、時代の先端を発信するメディア会社が多数存在しています。また、渋谷や銀座や新宿や、東京のどこに行くにも便利な場所でもあります。通勤や通学で赤坂を通過するだけの方にも、この街の良さというものを是非知っていただきたいと思います。この「Swing赤坂2010」がそのきっかけになればと願っています。」

「Swing赤坂2010」(にいまるいちまる)開催概要

日時 2010年9月30日(木)・10月1日(金)

緑日17:30-20:00/ライブ18:00-20:00

会場 ①赤坂通りエリア
②一ツ木みすじエスプラナードエリア
ほかストリートミュージシャンズボット

主催 赤坂まちづくり代表会議／
赤坂商店街協議会

詳しくはホームページをご覧ください
<http://swing-akasaka.com>



今年のイベントの様子

梅窓院や根津美術館を設計
青山を拠点に活躍する世界的建築家

隈研吾さん(建築家)
Kengo Kuma

国内はもとより、世界各地で活躍する建築家・隈研吾さん。1954年に横浜生まれ、現在は南青山に「隈研吾建築都市設計事務所」を構えています。青山にある「梅窓院」の寺院棟をはじめ、2009年にリニューアルした「根津美術館」の設計も担当。そんな隈さんに最初に「何故青山に？」という素朴な質問をしてみると、ゆたたりとした仕草と物腰で言葉を選ぶように語りはじめてくれました。

私と青山

「子どものころ、東横線の大倉山に住んでいましたが、渋谷にある「東京都児童館」にはよく遊びに来ていました。高校時代には、有栖川公園に隣接する「東京都立中央図書館」に足繁く通い、そのついでに青山エリアにも足を伸ばしていました。大学もキャンパスは駒場でしたが、神宮外苑のテニスクラブのメンバーになっていたこともあり、やはり青山に来ることが多く、国立競技場内のスポーツクラブも積極的に利用していました。そのため、青山は、自分の若い頃の日常があった場所で、馴染み深く、忘れがたいプレーゾーンです。」

青山の魅力

「世界一流の研ぎ澄まされたセンスをもつファッショナブルな表の顔を持つと同時に、その一歩裏手に入ると、人の気配を濃く感じる日常の世界が広がっていること、寺社が多く、聖なる空間を感じること、国立競技場・神宮球場、秋夕宮ラグビー場などの公共施設も、最近の「詰め込み」すぎた窮屈なものではなく、適度な樹木と広場との配置で「のびのび」していることなど、機能や空間が重層しているところに、このまちの魅力を感ずります。村上春樹氏の小説に「外苑前の駅を出て異空間にフープする」という表現がありますが、まさにそういう感じ。多様な表情を持つまちが好きで、精神性が損なわれなく生きている空間が大事なんです。」

これからの赤坂、青山について

「赤坂・青山エリアは、多様な表情を持っていることが魅力なのです。大規模なスクラップ&ビルドのような開発より、小さな開発、民家的なものをどう残すか、歴史や精神性をどう尊重するか、この手直

しの発想がいいと思います。ビルの谷間に、低層の戸建て住宅が品良く生息している感じ、世界のどの都市にも、この多様性を内包したまちはないですよ。

また、20世紀の主役は、コンクリートの型枠への流し込みと鉄やガラスでしたが、これを見直す感性が求められています。小さな都市計画の積み上げが、まちの魅力を創るのです。現地の素材、精神性、風土、社会を形づくっているものが「何か」をきちんと見極めて、自分で体験して、ディテールに気配りして取り組むことが大切です。」



梅窓院

応し合う「小さな都市計画」の姿であるとの解説をいただき、いかにまちの精神性を重視し、かつ都市と建築、一つの建物とまちの調和を鋭い感性と深い考察で探求されているかを知りました。そこには、新しい精神性と感性を軸にし、根の張った着眼点を兼ね備えられた「新しい建築家像」を見る思いがしました。

隈研吾氏プロフィール

1954年横浜市生まれ。栄光学園高等学校卒。東京大学工学部建築学科卒業、同大学院建築意匠専攻修士課程修了。その後、ロビンピア大学建築・都市計画学科客員研究員を経て、1990年隈研吾建築都市設計事務所設立、代表。現在、東京大学教授(大学院工学系研究科建築学専攻教授)隈研吾研究室。学術博士。Kuma & Associates Europe (仏・パリ)代表。著書 「建築的欲望の終焉」「グットバイ・ポストモダン」「負ける建築」他多数。

根津美術館

東武鉄道の社長などを務めた実業家・初代根津嘉一郎が蒐集した日本・東洋の古美術品コレクションを保存し、展示するため、昭和16年(1941)に開館。2009年に本館をリニューアル。この本館を設計したのが隈研吾さん。和風の家屋を思わせる大屋根をもち、竹などの自然素材を生かしながらも、ガラスと階段を効果的に使い、ダイナミックな印象を与えています。

- 所在地: 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
- TEL: 03-3400-2536 ●FAX: 03-3400-2436
- 開館時間: 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日: 月曜日・展示替期間・年末年始(ただし、月曜日が祝日の場合、翌火曜日)

乃木坂を拠点に活躍する
世界的に有名なブライダルデザイナー

桂由美さん(ブライダルデザイナー)
Yumi Katsura



という花嫁たちの願いを叶えるために、生地の開発はもとより、ブライダルに関するすべての小物の開拓など、無から生み出す困難を、夢と情熱と信念と、並はずれた慧眼でのりこえてこられました。

1981年に参加した初のニューヨークでのブライダルショーをきっかけとして、桂由美の名は知れ渡り、今ではパリオートクチュールコレクションをはじめ、世界各国で「日本ならではの美を伝える」を一貫したテーマに作品を発表し続けています。斬新なアイデア

赤坂の街の再生の糸をつなぐ
赤坂花柳界の屋台骨

影子姐さん(東京赤坂組合 赤坂芸妓組合長)
Miss Shoko



国立小劇場にて「藤娘」

耐え、芸者衆の踊りを目の当たりにしてはその芸を吸収し、未は踊りのお師匠さんを目指していました。

ところが、終戦後東京に戻ると、「『歌舞伎座で一度踊ってみたい』という夢が赤坂花柳界で叶う、女性も歌舞伎座にあがれる」ことを知りました。地元の名誉職にあった父には言えず、「貴女の人生だから」と応援してくれる母の理解を得て、赤坂芸者の道を歩み始めたのです。

M i s s S h o k o

と繊細なテクニックで見る人達に感動を与え、絶賛されています。また、ブライダルにおいて日本の伝統美を守るため、和洋の両立を提唱し、15年前からアジア各国の民族衣装の伝承にも力を注いでいます。

デザイナー、プロデューサー、経営者という3つの顔を持ち、多数の著名人が桂さんのドレスで結婚することでも脚光を浴びておられますが、実際にお会いすると、穏やかで慈しみ深い印象でした。そしてそれは、周囲の方々と強い信頼関係を持ち、『人』を大切にされる先生のお人柄から滲み出るものと感じました。尊敬されるお母様の亡き後、お母様が生前に愛用していた帽子からヒントを得たターバンは今や桂さんのトレードマークとなっています。

現在は乃木坂の高台に建つ、白亜の『桂由美ブライダルハウス』。幼少の頃からおとぎ話が大好きだったという桂さんは、プリンセスのように輝くことを夢見る花嫁のために、これからもここから世界中にブライダルの可能性を発信し続けられるのでしょ。

著書 「世界基準の女になる!」(徳間書店)
「桂由美マジック」(集英社)等多数あり

桂由美ブライダルハウス本店

Y u m i K a t s u r a

神武・岩戸景気(1950年代後半)の赤坂は、最盛期には400人の芸者衆、80もの料亭が軒を連ね人力車が往來する町で、黒塗りの車が並ぶのが常でした。それが、景気や社会の変化で、東京に現存する「六花街」(新橋、浅草、向島、芳町、神楽坂、赤坂)ではありませんが、料亭7軒、芸者衆28名と、その賑わいは衰えてゆきました。

花柳界の衰退で「街が汚くなった」と影子姐さんは言います。街の文化が廃れ始めると、街への愛着が薄れ、ゴミの出し方・臭いなどの問題も起こります。今こそ、街に関わる団体や個人が総力を合わせて街をもりたてていく時と実感し行動する姐さんです。

1949年(昭和24)から続く伝統芸能の「赤坂をどり」のテレビ映像で影姐さんの初出演を目にした父は、その人生の選択を認めて一言「ただ、普通の人間であることを忘れるな」と語ったそうです。「普通の人間」として師や学友、周りの人々への感謝の気持ちに溢れる影姐さんは、今日も、この赤坂の街の再生の糸を繋いでいます。



上智大学にて留学生に踊りを披露(留学生撮影)

青山を拠点に活動する
心の時代のスーパーサポーター

和田秀樹さん(精神科医)
Hideki Wada (国際医療福祉大学大学院教授)



和田秀樹さんがすごい人気です。心の病を癒してくれる精神科の名医ですが、時局や事件に対する新鮮で鋭い見識は聞き手をうならせ、大学受験を控えた高校生は卓抜な合格への挑戦法を教えられて救急車が飛んできた思いがするといまいます。こんな人が身近にいてくれれば、どんなにありがたいことでしょう。幸い、先生の拠点とされているのが、この青山。忙中の閑を割いていただき、お話を伺いました。

いまアルコール依存症やDV(暴力)が社会問題化していますね。

「アルコール依存症やDVIは、おかしい人が犯すものと思われがちですが、実は真面目でバリバリ仕事をしている人が、ストレスがたまって引き金になることが多いのです。そんな場合、日本社会ではエ

赤坂で創業100年
お騒がせ跡取り嬢 ホッピーミーナ

石渡美奈さん Mina Ishiwatari
(ホッピービバレッジ株式会社 代表取締役)



看板商品ホッピーとキャラクターMr.ホッピーを形取った名刺デザイン

創業100年で3代目社長が女性、赤坂老舗の落ち着いた会社だろうと思いながら取材で訪問した本社は、社員55名、平均年齢31才、平均勤続年数6年の若者達のベンチャー企業のような活気あふれる雰囲気でした。

赤坂の地で、祖父石渡秀によって1910年(明治43)、ラムネ作りから始まった「秀水舎」。1948年(昭和23)、社名を「コカ-Cola飲料株式会社」と変更し、本物のホップを使った本物のノンビア(ノンアルコールビール)を「ホッピー」として製造・販売をはじめましたが、当時は敗戦直後で、工場を建てた赤坂5丁目交番あたりは焼け野原だったそうです。大手メーカーに先駆けて、低カロリー、低糖質、プリンゼゼロの「ホッピー」の誕生です。

1963年(昭和38)にはアメリカの炭酸飲料の日本進出に対抗して、国産初のブラウンソーダ「コップ・ガラナ」を売り出しました。1967年(昭和42)、石渡光一(現会長)が二代目就任し、調布に工場を移転。1995年(平成7)に、地ビール「赤坂ビール」「深大寺ビール」を製造・販売開始し、社名を「ホッピービバレッジ株式会社」と改名しました。

赤坂に住み始めたのは1973年(昭和48)、美奈さんが小学校2年生のときだそうです。当時の赤坂は、地下鉄千代田線の工事がはじまり、町の様相が一変しはじめたころ。そして1980年(昭和55)にTBSが現在地に

著書

「社長が変われば社員は変わる」(あさ出版)、「ホッピーでHAPPY!」(文春文庫)、「ホッピーの教科書」(日経BP社)ホームページ ホッピービバレッジ株式会社(<http://www.hoppy-happy.com/>)、ブログ:看板嬢ホッピーミーナのあととり修行日記(<http://www.hoppy-happy.com/blog/>)、みーな手帖(<http://www.hoppy-happy.com/blog-notebook/>)

